

医師の
「スマートフォン&タブレット型端末」
利用意向調査

平成23年2月18日

株式会社QLife(キューライフ)

調査の背景

スマートフォン(例:iPhone)やタブレット型端末(例:iPad)の利用者拡大の勢いが止まらない。医師はどの程度所有、あるいは所有予定なのだろうか?その実態と、利用目的を調査し、「医療現場ならではの使い方」があるのかを探った。

8か月前に同様の調査を行った時点と比べての状況変化も確認する。

結論の概要

- 1)スマートフォンを所有している医師は、17.3%で、8か月前の8.7%に比べて約2倍となった。勤務医と開業医とで差はなかった。今後所有予定(現在未所有)の医師は、22.0%で、これも8か月前よりも増えており、医療者間への普及に加速がついている。
- 2)具体的なスマートフォン機種は、iPhoneが55.9%で一位。ただし勤務医では、Android端末も急速にシェアを伸ばす勢いを見せている。
- 3)タブレット型端末を所有している医師は、7.7%。8か月前の約1.5倍となった。勤務医の方が若干普及率が高い。今後所有予定(現在未所有)の医師は、13.0%で、8か月前より微増。
- 4)具体的なタブレット型端末機種は、iPadが圧倒的な一位で、勤務医/開業医ともに8割超。
- 5)タブレット型端末の所有/所有予定の目的は、勤務医は「論文や医学誌等を閲覧」など専門コンテンツ閲覧・保管が多い。開業医では、加えて「メールやWEB」「スケジュールや労務管理」「患者説明」なども多い。

【調査実施概要】

▼調査主体

株式会社QLife(キューライフ)

▼実施概要

- (1) 調査対象: 全国の医師
- (2) 有効回収数: 300人 (病院勤務医150人、診療所開業医150人)
- (3) 調査方法: インターネット調査
- (4) 調査時期: 2011/2/8~2011/2/12

▼有効回答者の属性

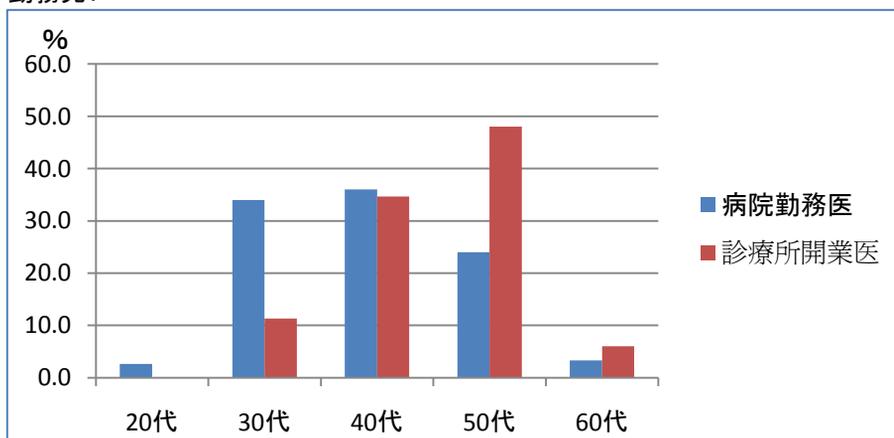
(1) 性・年代:

	男	女	計
20代	1.0%	0.3%	1.3%
30代	18.7%	4.0%	22.7%
40代	31.3%	4.0%	35.3%
50代	34.3%	1.7%	36.0%
60代	4.3%	0.3%	4.7%
計	89.7%	10.3%	100.0%

(2) 居住地:

北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬
7.7%	1.7%	1.0%	1.7%	1.3%	0.7%	0.3%	0.7%	2.0%	3.3%
埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野
2.3%	2.7%	13.3%	6.3%	2.0%	0.7%	1.3%	0.0%	0.3%	2.0%
岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山
0.3%	2.3%	6.7%	1.0%	1.7%	4.7%	4.3%	4.3%	1.0%	0.3%
鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡
0.3%	1.0%	0.7%	3.3%	1.3%	1.0%	1.0%	1.7%	1.0%	4.3%
佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄			
0.3%	2.3%	1.7%	0.0%	1.0%	1.0%	0.0%			

(3) 勤務先:



【調査結果の詳細】

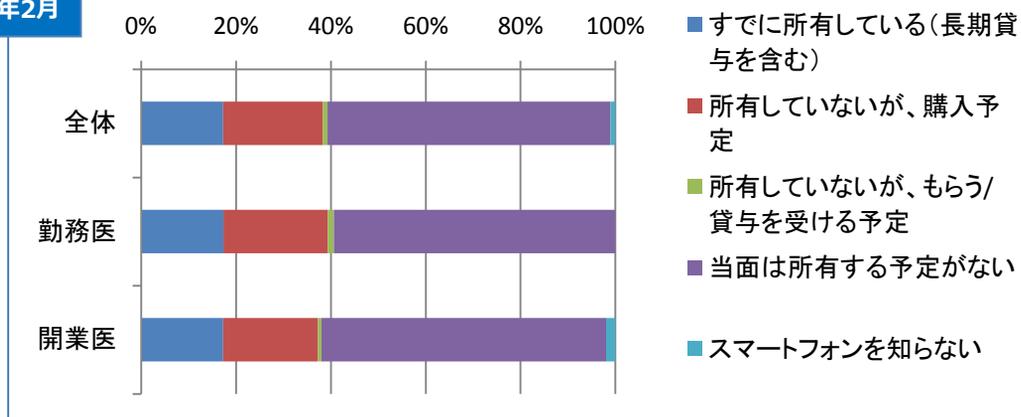
1. 【スマートフォン】を、お持ちですか。または購入してみたいと思いますか。

※【スマートフォン】とは：携帯情報端末(PDA)と電話機が融合した携帯端末を指します。【タブレット型端末】よりも小型です。本日現在では、iPhoneが最も販売実績があります。

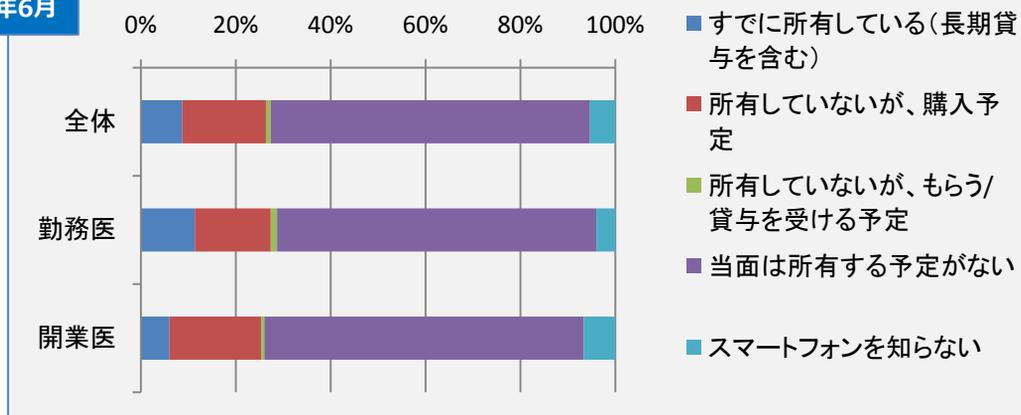
スマートフォンの所有状況を確認したところ、全体の17.3%が所有しており、8か月前の8.7%に比べて約2倍となった。病院勤務医と診療所開業医とであまり差はない。所有予定者は22.0%(=21.0+1.0)と8か月前の18.7%より増加しており、普及に加速がついている状態。「スマートフォンを知らない」人は、ほぼゼロであった。

	全体	勤務医	開業医	%
すでに所有している(長期貸与を含む)	17.3	17.3	17.3	
所有していないが、購入予定	21.0	22.0	20.0	
所有していないが、もらう/貸与を受ける予定	1.0	1.3	0.7	
当面は所有する予定がない	59.7	59.3	60.0	
スマートフォンを知らない	1.0	0.0	2.0	
合計	100.0	100.0	100.0	

2011年2月



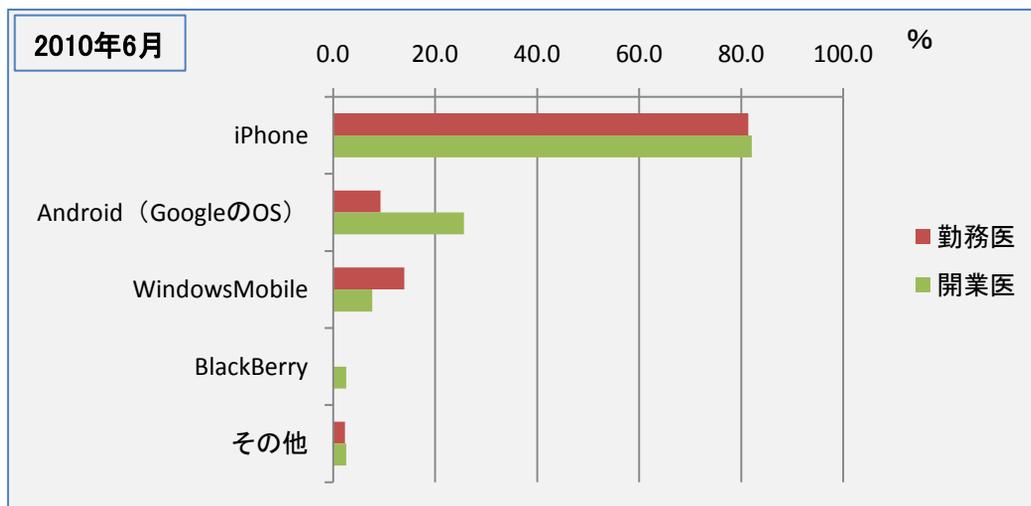
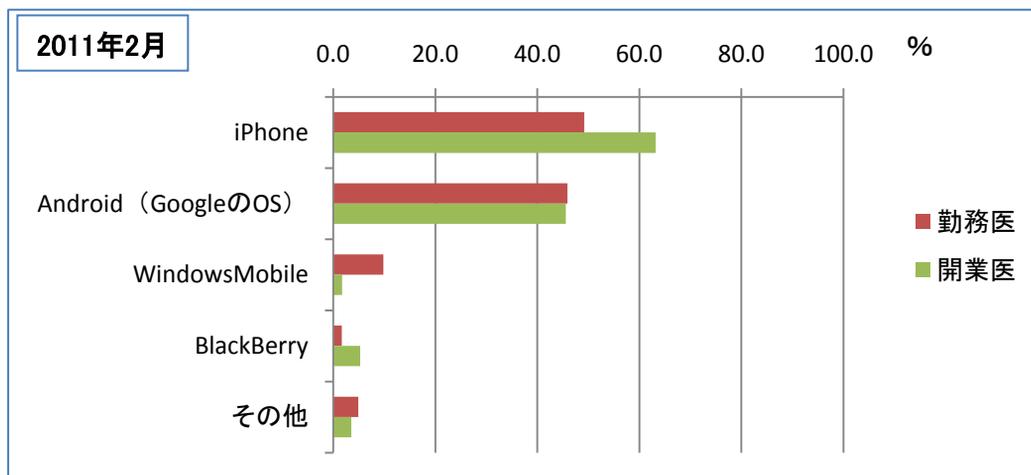
2010年6月



2. どのスマートフォンをお持ちですか/所有予定ですか。〈複数選択〉

所有者および所有予定者に具体的な機種を聞いたところ、iPhoneが引き続きNO1。しかしながら、Android端末も今後は急速にシェアを伸ばしそうだ。病院勤務医では既に拮抗している。

	%		
	全体	勤務医	開業医
iPhone	55.9	49.2	63.2
Android (GoogleのOS)	45.8	45.9	45.6
WindowsMobile	5.9	9.8	1.8
BlackBerry	3.4	1.6	5.3
その他	4.2	4.9	3.5
合計	113.4	107.0	120.5

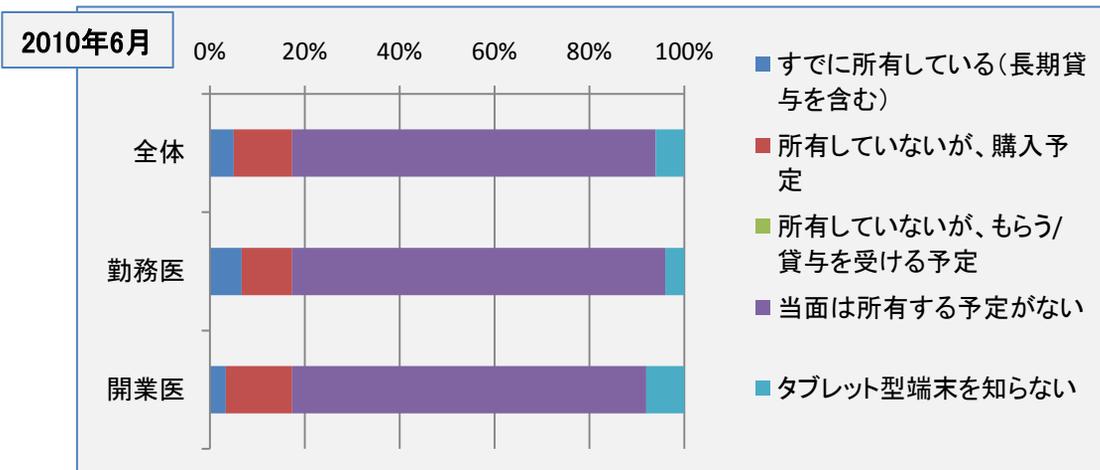
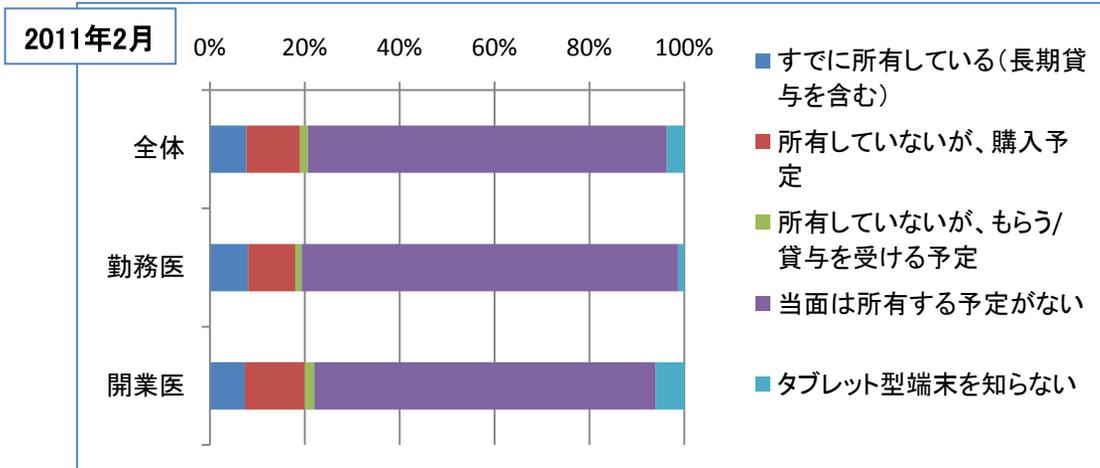


3. 【タブレット型端末】を、お持ちですか。または購入してみたいと思いますか。

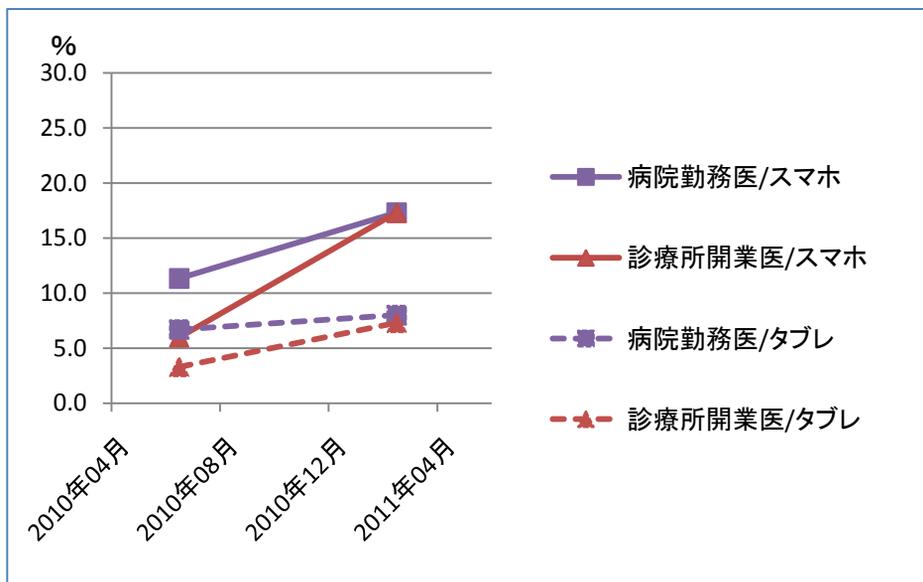
※【タブレット型端末】とは：スクリーンを指先でタッチして操作する携帯型コンピュータを指します。本調査ではアマゾン社のキンドルなど電子書籍用端末も含むものとします。【スマートフォン】よりも大型です。本日現在では、iPadが最も販売実績があります。

タブレット型端末の所有状況を確認したところ、全体で7.7%がすでに所有しており、これは8か月前の5.0%から約1.5倍の伸び。病院勤務医の方がやや多い。所有予定者も、全体で13.0%(=11.3+1.7)と8か月前の12.3%より微増で、今度も普及率は伸びそうだ。

	全体	勤務医	開業医
すでに所有している(長期貸与を含む)	7.7	8.0	7.3
所有していないが、購入予定	11.3	10.0	12.7
所有していないが、もらう/貸与を受ける予定	1.7	1.3	2.0
当面は所有する予定がない	75.7	79.3	72.0
タブレット型端末を知らない	3.7	1.3	6.0
合計	100.0	100.0	100.0



スマートフォンとタブレット型端末の所有率の変化を、同じグラフの上に重ねた。どちらも所有率に出遅れ感があった開業医が、勤務医と同水準になったことがわかる。また、スマートフォンは勤務医・開業医ともに伸びが強く、普及に加速がついている段階にあると思われる。



また、勤務先別および専門領域別に2011年2月の回答をクロス集計した結果は、以下の通り。

注：専門領域は重複あり。また、「それ以外の内科」「一般&整形外科以外の外科」は、回答結果をQLifeが再集計した。nが小さい、特に19以下のセグメントは、参考値。

勤務先	n	スマホ所有率	タブレ所有率
国立病院(大学付属病院を除く)	11	27.3%	0.0%
大学病院	21	23.8%	14.3%
公立病院	46	10.9%	6.5%
私立病院(100床以上)	62	14.5%	8.1%
私立病院(100床未満)	14	28.6%	7.1%
有床診療所	19	15.8%	0.0%
無床診療所	126	18.3%	8.7%

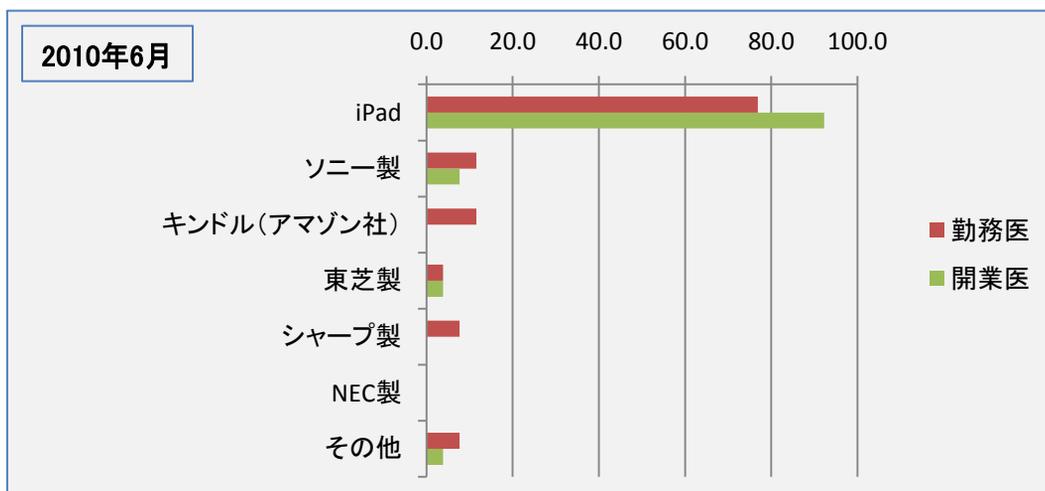
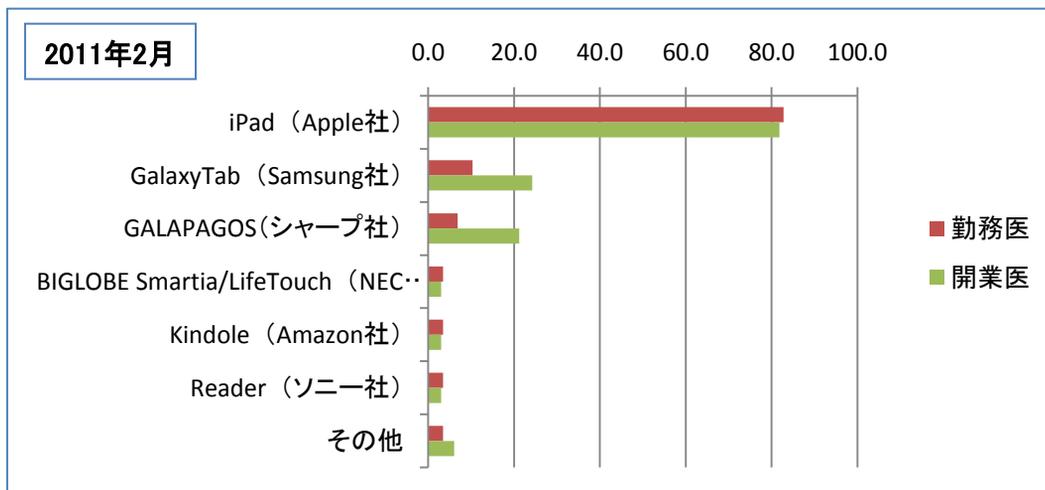
専門領域	n	スマホ所有率	タブレ所有率
一般内科・総合診療科	88	19.3%	9.1%
それ以外の内科	116	14.7%	9.5%
一般外科	20	15.0%	5.0%
整形外科	31	19.4%	3.2%
一般&整形以外の外科	57	26.3%	10.5%
小児科・新生児科	26	11.5%	3.8%
救命救急科(ER)	4	25.0%	25.0%
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	11	9.1%	9.1%
眼科	11	45.5%	18.2%
皮膚科	15	20.0%	26.7%
麻酔科・ペインクリニック	16	18.8%	0.0%
産科	9	0.0%	0.0%
婦人科・女性診療科	16	0.0%	6.3%
放射線科	8	37.5%	12.5%
精神科・神経科・心療内科	14	28.6%	7.1%

4. どのタブレット型端末をお持ちですか/所有予定ですか。＜複数選択＞

所有者および所有予定者に具体的な機種を聞いたところ、iPadが8割超と圧倒的な1位を維持している。ただし診療所開業医においては、Galaxy TabやGALAPAGOSもこれから伸びそうだ。

%

	全体	勤務医	開業医
iPad (Apple社)	82.3	82.8	81.8
Galaxy Tab (Samsung社)	17.7	10.3	24.2
GALAPAGOS (シャープ社)	14.5	6.9	21.2
BIGLOBE Smartia/LifeTouch (NEC社)	3.2	3.4	3.0
Kindle (Amazon社)	3.2	3.4	3.0
Reader (ソニー社)	3.2	3.4	3.0
その他	4.8	3.4	6.1
合計	113.5	119.2	107.7



5. 仕事上(医療現場)で、どんなことに【タブレット型端末】を利用中/したいですか。＜複数選択＞

所有者および所有予定者に、その利用目的を尋ねたところ、病院勤務医で一人あたり4.0個、診療所開業医で3.6個の利用法が選択された。勤務医では、「論文や医学誌等を閲覧」「医療分野の辞書等を閲覧」といった専門コンテンツを閲覧・保管するニーズが一般的。開業医はやや分散傾向にあり、「メールやWEB」「スケジュールや労務管理」「患者説明」なども多く、さらには「特定の利用目的を考えていない」という人も少なくない。

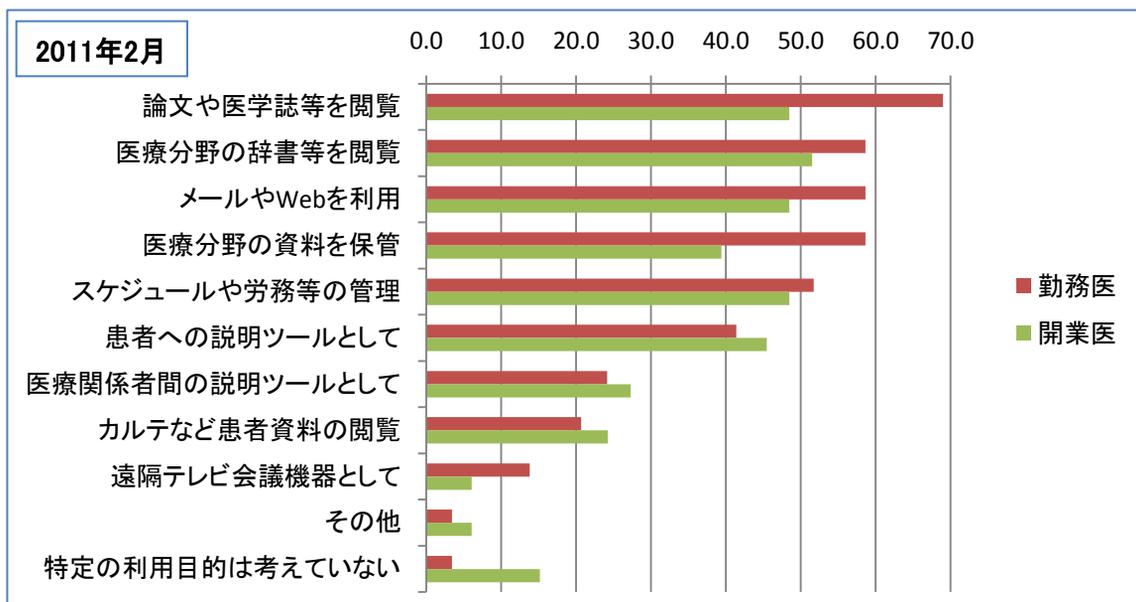
8か月前と比べて伸びが目立つ利用法は、以下の通り。

＜病院勤務医＞

- 論文や医学誌等を閲覧： 7.4ポイント増加
- 患者への説明ツールとして： 6.8ポイント増加
- 医療関係者間の説明ツールとして： 24.1ポイント増加

＜診療所開業医＞

- スケジュールや労務等の管理： 13.9ポイント増加



本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 山内善行

TEL : 03-5433-3161 / E-mail : info@qlife.co.jp

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)

所在地 : 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂2-7-2 リングリングビルA棟6F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006年(平成18年)11月17日

事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念 : 生活者と医療機関の距離を縮める

サイト理念 : 感動をシェアしよう!

URL : <http://www.qlife.co.jp/>
